

I 貯蓄の状況

1 概要

(1) 二人以上の世帯の平均貯蓄現在高は1657万円で1.2%の増加

平成22年平均の二人以上の世帯の1世帯当たり貯蓄現在高は1657万円で、前年に比べ1.2%の増加となった。一方、年間収入は616万円で前年に比べ2.2%減少し、貯蓄年収比（貯蓄現在高の年間収入に対する比）は、前年に比べ9.0ポイント上昇し269.0%となった。

このうち勤労者世帯（二人以上の世帯に占める割合53.8%）についてみると、貯蓄現在高は1244万円で、前年に比べ3.4%の増加となった。また、年間収入は697万円で前年に比べ1.7%減少し、貯蓄年収比は、前年に比べ8.8ポイント上昇し178.5%となった（表1）。

表1 貯蓄現在高の推移

年次	貯蓄現在高 (1) (万円)	年間収入 (2) (万円)	対前年増減率		貯蓄年収比 (1)/(2) (%)	中央値 (万円)
			貯蓄現在高 (%)	年間収入 (%)		
二人以上の世帯						
平成14年	1688	683	-	-	247.1	1022
15	1690	660	0.1	-3.4	256.1	1027
16	1692	650	0.1	-1.5	260.3	1024
17	1728	645	2.1	-0.8	267.9	1052
18	1722	645	-0.3	0.0	267.0	1008
19	1719	649	-0.2	0.6	264.9	1018
20	1680	637	-2.3	-1.8	263.7	995
21	1638	630	-2.5	-1.1	260.0	988
22	1657	616	1.2	-2.2	269.0	995
うち勤労者世帯						
平成14年	1280	748	-	-	171.1	817
15	1292	721	0.9	-3.6	179.2	808
16	1273	730	-1.5	1.2	174.4	805
17	1292	719	1.5	-1.5	179.7	807
18	1264	713	-2.2	-0.8	177.3	772
19	1268	718	0.3	0.7	176.6	783
20	1250	717	-1.4	-0.1	174.3	757
21	1203	709	-3.8	-1.1	169.7	754
22	1244	697	3.4	-1.7	178.5	743

(2) 貯蓄現在高が100万円未満の世帯の割合は11.3%

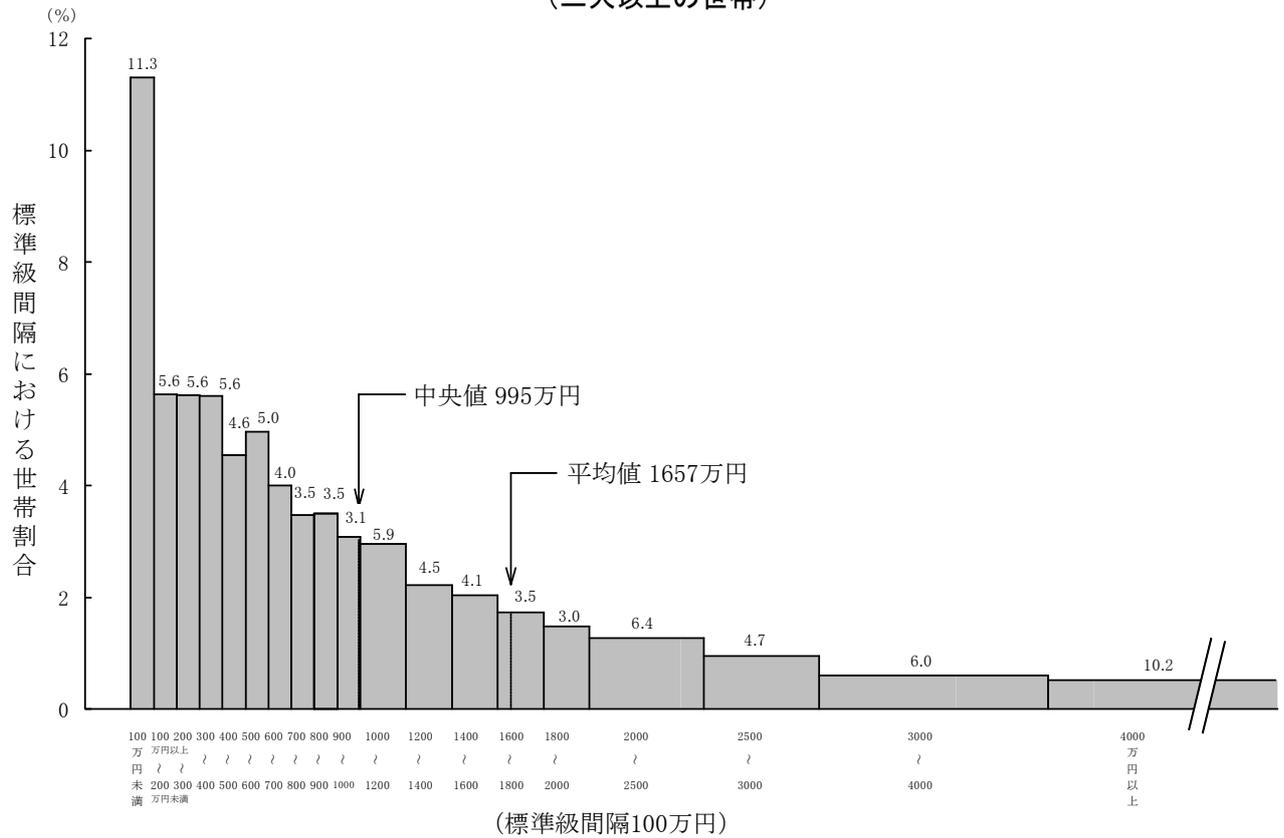
二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別の世帯分布をみると、平均値（1657万円）を下回る世帯が67.2%（前年67.6%）と約3分の2を占め、世帯分布は貯蓄現在高の低い階級に偏っている。貯蓄現在高が最も少ない100万円未満の階級が、二人以上の世帯に占める割合は11.3%となっており、前年（10.7%）に比べ0.6ポイント上昇した。

また、貯蓄現在高のある世帯全体を二分する中央値（金額の低い世帯から高い世帯へと順に並べ、ちょうど中央に当たる世帯の値）は995万円（前年988万円）となった。

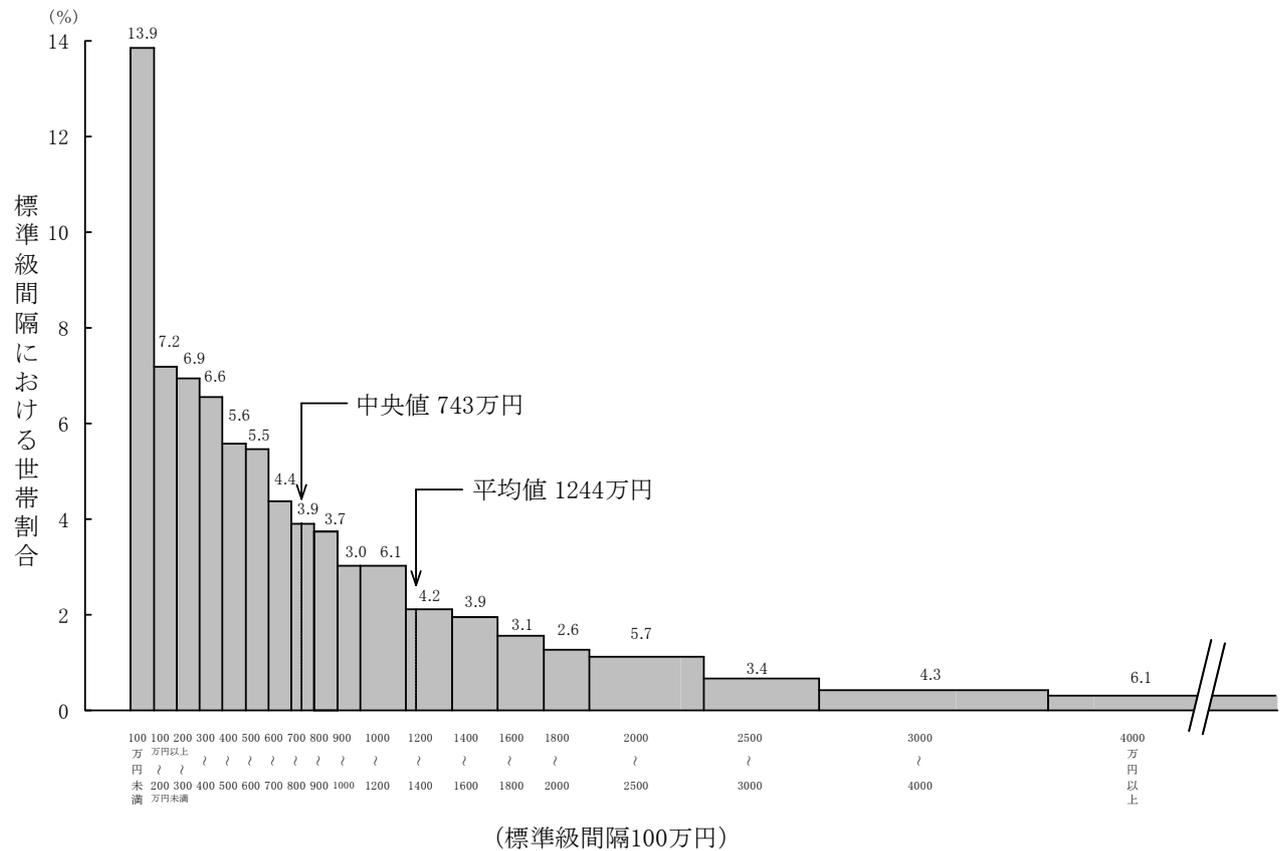
このうち勤労者世帯についてみると、平均値は1244万円、中央値は743万円となっており、共に二人以上の世帯全体より低くなっている。なお、100万円未満の階級が勤労者世帯に占める割合は13.9%で、前年（12.7%）に比べ1.2ポイント上昇した（図1）。

図1 貯蓄現在高階級別世帯分布—平成22年—

(二人以上の世帯)



(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



2 貯蓄の種類別内訳

(1) 二人以上の世帯及び勤労者世帯共に通貨性預貯金は増加傾向

二人以上の世帯について貯蓄の種類別に1世帯当たり貯蓄現在高をみると、定期性預貯金が707万円(貯蓄現在高に占める割合42.7%)と最も多く、次いで「生命保険など」が380万円(同22.9%)、通貨性預貯金が311万円(同18.8%)、有価証券が213万円(同12.9%)、金融機関外が48万円(同2.9%)となっている。

このうち勤労者世帯についてみると、定期性預貯金が475万円(同38.2%)と最も多く、次いで「生命保険など」が329万円(同26.4%)、通貨性預貯金が253万円(同20.3%)、有価証券が122万円(同9.8%)、金融機関外が65万円(同5.2%)となっており、二人以上の世帯と同様の順になっている。

平成17年以降の推移をみると、二人以上の世帯及び勤労者世帯共に、貯蓄現在高が多い定期性預貯金及び「生命保険など」では減少傾向が続いていたが、22年は、定期性預貯金及び「生命保険など」共に増加した。通貨性預貯金は、二人以上の世帯及び勤労者世帯共に、増加傾向が続いている。有価証券は増加傾向が続いていたが、二人以上の世帯は平成20年をピークに、勤労者世帯は19年をピークにそれ以降は減少傾向が続いている(表2、図2)。

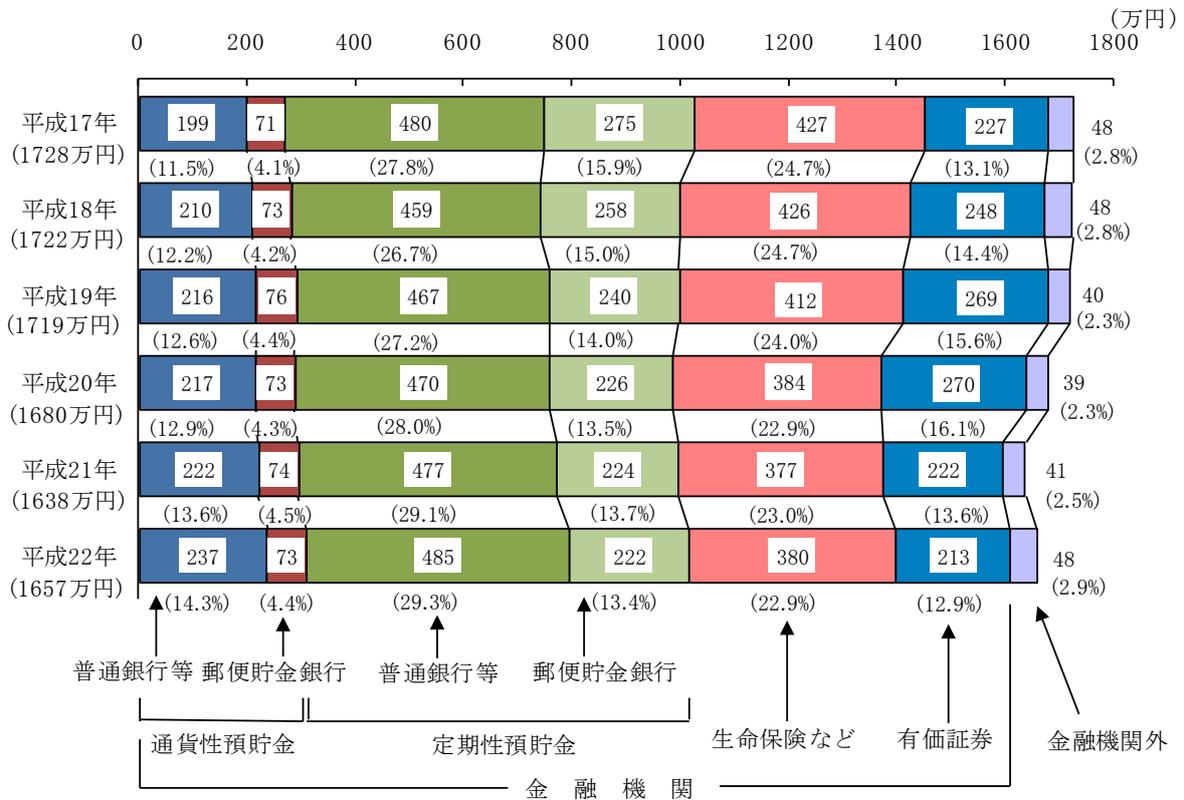
表2 貯蓄の種類別貯蓄現在高の推移

項目	二人以上の世帯																	
	平成17年			平成18年			平成19年			平成20年			平成21年			平成22年		
	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)															
貯蓄現在高	1728	100.0	2.1	1722	100.0	-0.3	1719	100.0	-0.2	1680	100.0	-2.3	1638	100.0	-2.5	1657	100.0	1.2
金融機関	1680	97.2	2.0	1675	97.3	-0.3	1679	97.7	0.2	1640	97.6	-2.3	1597	97.5	-2.6	1610	97.2	0.8
通貨性預貯金	269	15.6	3.9	284	16.5	5.6	292	17.0	2.8	290	17.3	-0.7	296	18.1	2.1	311	18.8	5.1
普通銀行等	199	11.5	2.6	210	12.2	5.5	216	12.6	2.9	217	12.9	0.5	222	13.6	2.3	237	14.3	6.8
郵便貯金銀行	71	4.1	9.2	73	4.2	2.8	76	4.4	4.1	73	4.3	-3.9	74	4.5	1.4	73	4.4	-1.4
定期性預貯金	756	43.8	-0.9	717	41.6	-5.2	707	41.1	-1.4	696	41.4	-1.6	701	42.8	0.7	707	42.7	0.9
普通銀行等	480	27.8	1.5	459	26.7	-4.4	467	27.2	1.7	470	28.0	0.6	477	29.1	1.5	485	29.3	1.7
郵便貯金銀行	275	15.9	-5.2	258	15.0	-6.2	240	14.0	-7.0	226	13.5	-5.8	224	13.7	-0.9	222	13.4	-0.9
生命保険など	427	24.7	-3.0	426	24.7	-0.2	412	24.0	-3.3	384	22.9	-6.8	377	23.0	-1.8	380	22.9	0.8
有価証券	227	13.1	22.7	248	14.4	9.3	269	15.6	8.5	270	16.1	0.4	222	13.6	-17.8	213	12.9	-4.1
株式・株式投資信託	142	8.2	18.3	166	9.6	16.9	182	10.6	9.6	171	10.2	-6.0	139	8.5	-18.7	134	8.1	-3.6
貸付信託・金銭信託	20	1.2	25.0	15	0.9	-25.0	14	0.8	-6.7	15	0.9	7.1	13	0.8	-13.3	11	0.7	-15.4
債券・公社債投資信託	65	3.8	35.4	67	3.9	3.1	73	4.2	9.0	85	5.1	16.4	70	4.3	-17.6	68	4.1	-2.9
金融機関外	48	2.8	6.7	48	2.8	0.0	40	2.3	-16.7	39	2.3	-2.5	41	2.5	5.1	48	2.9	17.1

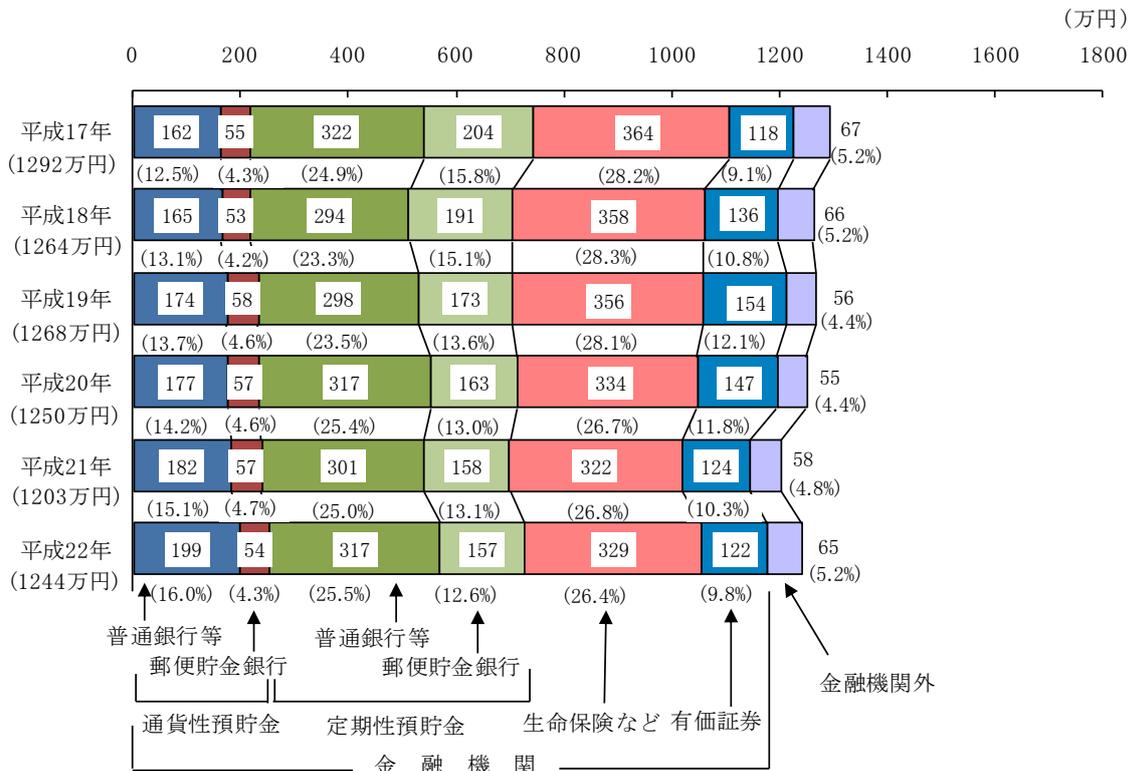
項目	うち勤労者世帯																	
	平成17年			平成18年			平成19年			平成20年			平成21年			平成22年		
	金額 (万円)	構成比 (%)	対前年 増減率 (%)															
貯蓄現在高	1292	100.0	1.5	1264	100.0	-2.2	1268	100.0	0.3	1250	100.0	-1.4	1203	100.0	-3.8	1244	100.0	3.4
金融機関	1225	94.8	1.2	1198	94.8	-2.2	1212	95.6	1.2	1195	95.6	-1.4	1145	95.2	-4.2	1179	94.8	3.0
通貨性預貯金	216	16.7	4.9	218	17.2	0.9	232	18.3	6.4	234	18.7	0.9	240	20.0	2.6	253	20.3	5.4
普通銀行等	162	12.5	3.2	165	13.1	1.9	174	13.7	5.5	177	14.2	1.7	182	15.1	2.8	199	16.0	9.3
郵便貯金銀行	55	4.3	12.2	53	4.2	-3.6	58	4.6	9.4	57	4.6	-1.7	57	4.7	0.0	54	4.3	-5.3
定期性預貯金	526	40.7	1.0	485	38.4	-7.8	471	37.1	-2.9	479	38.3	1.7	460	38.2	-4.0	475	38.2	3.3
普通銀行等	322	24.9	4.2	294	23.3	-8.7	298	23.5	1.4	317	25.4	6.4	301	25.0	-5.0	317	25.5	5.3
郵便貯金銀行	204	15.8	-3.8	191	15.1	-6.4	173	13.6	-9.4	163	13.0	-5.8	158	13.1	-3.1	157	12.6	-0.6
生命保険など	364	28.2	-3.7	358	28.3	-1.6	356	28.1	-0.6	334	26.7	-6.2	322	26.8	-3.6	329	26.4	2.2
有価証券	118	9.1	11.3	136	10.8	15.3	154	12.1	13.2	147	11.8	-4.5	124	10.3	-15.6	122	9.8	-1.6
株式・株式投資信託	72	5.6	2.9	92	7.3	27.8	104	8.2	13.0	94	7.5	-9.6	75	6.2	-20.2	76	6.1	1.3
貸付信託・金銭信託	11	0.9	10.0	10	0.8	-9.1	9	0.7	-10.0	8	0.6	-11.1	11	0.9	37.5	6	0.5	-45.5
債券・公社債投資信託	36	2.8	44.0	34	2.7	-5.6	41	3.2	20.6	45	3.6	9.8	38	3.2	-15.6	39	3.1	2.6
金融機関外	67	5.2	6.3	66	5.2	-1.5	56	4.4	-15.2	55	4.4	-1.8	58	4.8	5.5	65	5.2	12.1

図2 貯蓄の種類別貯蓄現在高及び構成比の推移

(二人以上の世帯)



(二人以上の世帯のうち勤労者世帯)



注) ()内は、貯蓄現在高に占める割合

(2) 貯蓄現在高が多い世帯ほど有価証券の割合が高い

二人以上の世帯について貯蓄現在高階級別に貯蓄の種類別割合をみると、貯蓄現在高が少ない世帯ほど通貨性預貯金の割合が高く、貯蓄現在高が多い世帯ほどおおむね定期性預貯金及び有価証券の割合が高くなる傾向がみられる（表3、図3）。

表3 貯蓄現在高階級、貯蓄の種類別貯蓄現在高（二人以上の世帯）－平成22年－

項目	平均	200万円未満	200万円以上 ～400万円未満	400～600	600～800	800～1000	1000～1200	1200～1600	1600～2000	2000～3000	3000万円以上
金額(万円)											
年間収入	616	470	550	580	584	641	614	646	658	688	759
貯蓄現在高	1657	67	291	494	688	889	1088	1385	1783	2443	5465
金融機関	1610	65	282	481	666	857	1056	1344	1718	2370	5322
通貨性預貯金	311	32	103	140	184	204	231	282	339	431	896
定期性預貯金	707	17	93	181	262	336	432	565	779	1113	2384
生命保険など	380	14	78	143	192	270	318	397	447	572	1094
有価証券	213	2	7	16	28	47	75	99	153	255	948
金融機関外	48	2	9	14	23	32	32	41	65	72	143
構成比(%)											
貯蓄現在高	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
金融機関	97.2	97.0	96.9	97.4	96.8	96.4	97.1	97.0	96.4	97.0	97.4
通貨性預貯金	18.8	47.8	35.4	28.3	26.7	22.9	21.2	20.4	19.0	17.6	16.4
定期性預貯金	42.7	25.4	32.0	36.6	38.1	37.8	39.7	40.8	43.7	45.6	43.6
生命保険など	22.9	20.9	26.8	28.9	27.9	30.4	29.2	28.7	25.1	23.4	20.0
有価証券	12.9	3.0	2.4	3.2	4.1	5.3	6.9	7.1	8.6	10.4	17.3
金融機関外	2.9	3.0	3.1	2.8	3.3	3.6	2.9	3.0	3.6	2.9	2.6
構成比の対前年変化幅(ポイント)											
貯蓄現在高											
金融機関	-0.3	-0.1	0.0	0.5	0.3	-0.2	-0.2	0.2	-0.9	0.1	-0.6
通貨性預貯金	0.7	0.7	1.0	-0.9	-0.1	0.6	-0.3	0.5	-1.2	-0.5	1.6
定期性預貯金	-0.1	1.1	0.7	1.6	2.3	-1.0	-0.2	0.2	0.5	1.6	-1.1
生命保険など	-0.1	-2.0	-1.3	-0.1	-1.4	0.5	-1.2	0.0	-0.7	0.3	0.0
有価証券	-0.7	1.6	-0.4	-0.5	-0.5	-0.3	1.4	-0.6	0.4	-1.3	-1.2
金融機関外	0.4	0.1	-0.4	-0.3	-0.2	0.2	0.2	-0.2	0.9	-0.2	0.6

図3 貯蓄現在高階級，貯蓄の種類別貯蓄現在高の構成比（二人以上の世帯）－平成22年－

